

1 調査目的

国内には、輸血を必要とする人が年間約 100 万人いると言われ、がんや白血病などの病気やケガと闘う患者さんを救うために献血が必要です。献血は 16 歳からできますが、若年層（10～30 代）の献血者数は減少傾向にあり、このままですと、将来の安定供給を維持することが困難になる恐れがあります。将来にわたって安定供給を確保するための効果的な普及啓発事業を検討するため、献血に関する意識調査を実施しました。

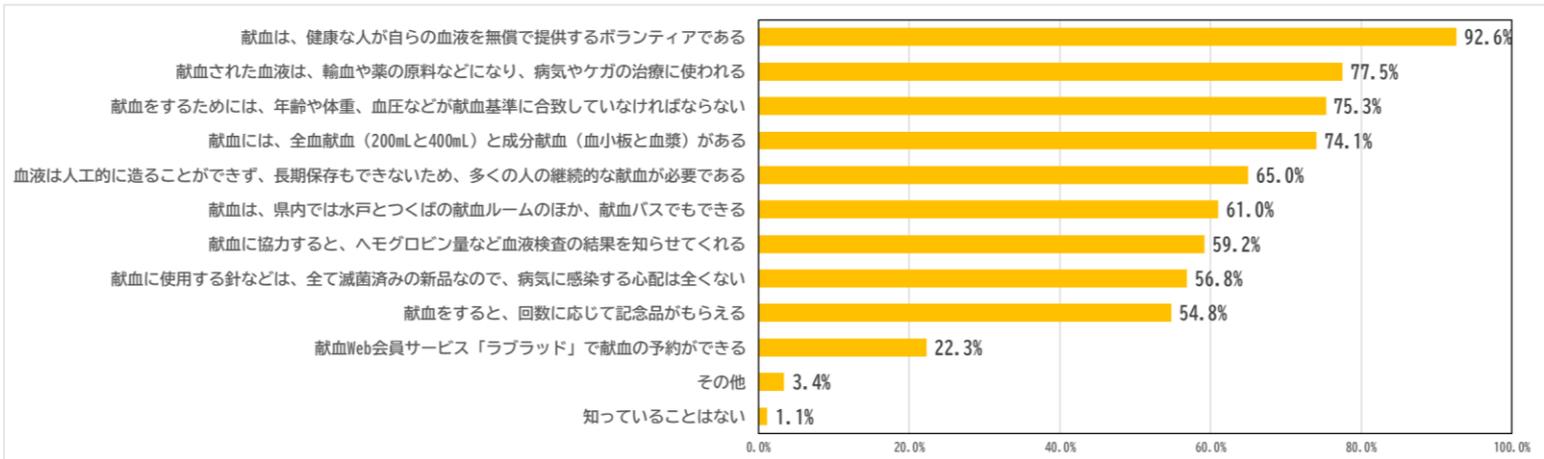
2 結果の概要

- ・ 献血に関する知識としては、献血がボランティアであることを認識している割合が 9 割を超えている一方、予約サービスの認知度は約 2 割にとどまった。
- ・ 過去に献血をした経験がある方は 6 割を超えたが、1 年以内に献血をした方は 13.5%にとどまった。
- ・ 献血経験者のうち、初めて献血した年齢としては 20 代までの回答が 8 割を超えていた。
- ・ 献血をしたきっかけとして、学校や職場に献血バスが来たが約 5 割であった。また、家族や友人が献血をしていたが約 2 割であった。
- ・ 献血後の心境として、「自分の血液が人の役に立ってほしいと思った」方が約 8 割、「輸血用血液が不足していると聞いたため、安定供給に貢献出来たらいいなと思った」方が約 5 割と、他者への貢献を望む回答となった。また、「血液の検査結果を自身の健康管理に役立てようと思った」が 37.2%であった。
- ・ 「献血 Web 会員サービス『ラブラッド』」で予約したことがある方の割合は、若い年代のほうが高く、16 歳～29 歳では約半数の方が利用していた。全年代で見ると、「予約をしたことはない」が 75.3%であった。
- ・ これまで一度も献血をしたことがない、あるいは 1 年以内に献血をしていない主な理由は、「年齢や体重、血圧などが献血基準に合わないから」が 31.8%、「薬を飲んでいるなど健康上できないと思ったから」が 27.3%であった。ほかに、「近くに献血できる場所がないから」、「忙しくて献血する時間がないから・時間がかかりそうだから」との回答もあった。
- ・ 若年層へのアプローチについては、「誰かの命を救えること」が最も効果的となった。一方、「血液の検査結果がもらえるので、自身の健康管理のためになる」、「献血をすると記念品などがもらえる」を選んだ方は合わせて約 3 割となり、献血者本人のメリットもアピールポイントになるということがわかった。

【問1】（献血に関する知識）

あなたが、献血について知っていることは何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,142)

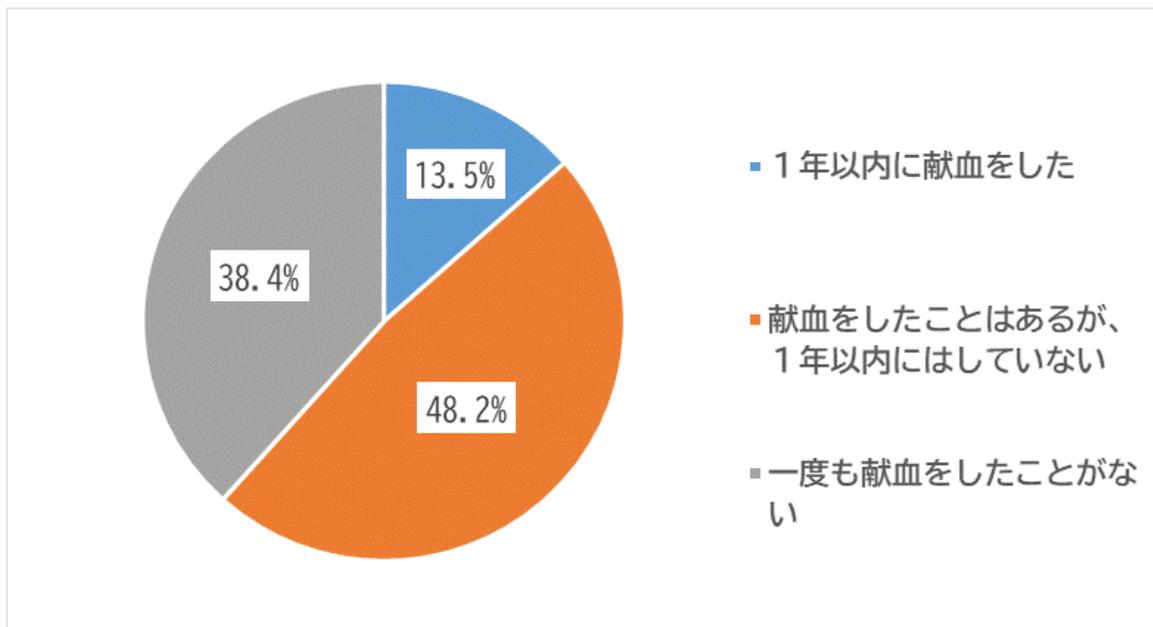


- 「献血は、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアである」が最も多く 92.6%であった。
- 「献血 Web 会員サービス『ラブラッド』で献血の予約ができる」ことの認知度が低く、22.3%にとどまった。
- 「その他」（3.4%）として、献血ルームが清潔であること、献血前後の水分補給が大事であることなどの回答があった（計 39 件）。

【問2】（献血への協力）

あなたは、1年以内に献血をしましたか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,142)



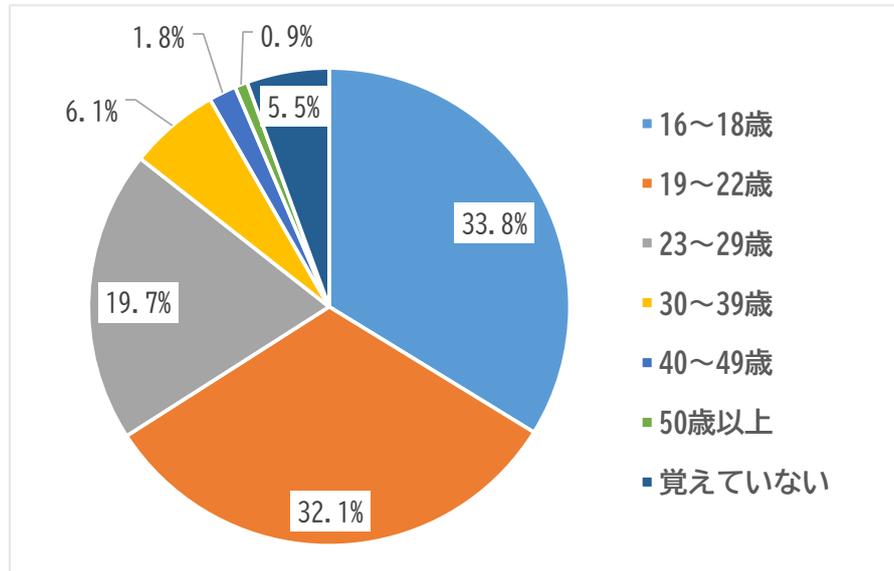
- 献血をしたことがある方（「1年以内に献血をした」または「献血をしたことはあるが、1年以内にはしていない」と回答した方）は6割を超えたが、「1年以内に献血をした」は13.5%にとどまった。

【問3】（初めて献血をした年齢）

（問2で「1年以内に献血をした」、「献血をしたことはあるが、1年以内にはしていない」を選択した方へ）

あなたが、初めて献血をしたのは何歳の時ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=704)



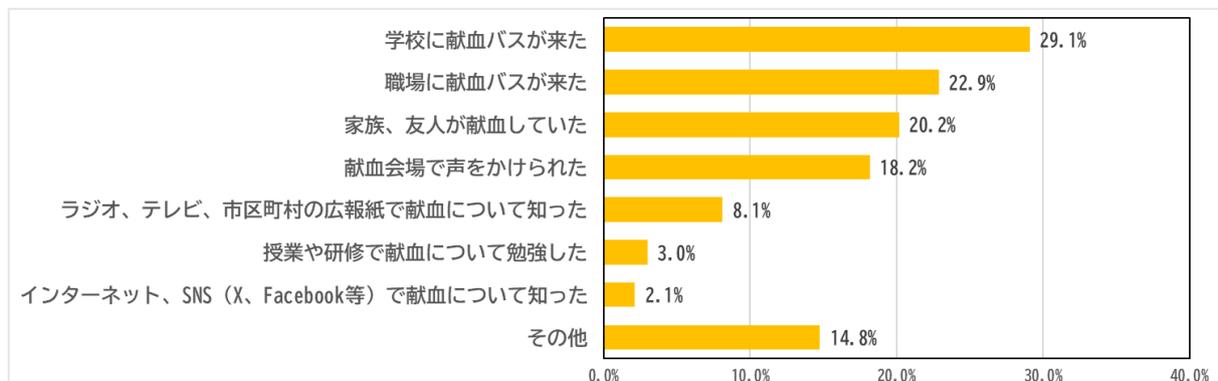
○初めて献血した時の年齢が10～20代であった方（「16～18歳」、「19～22歳」、「23～29歳」と回答した方）は85.7%であった。

【問4】（献血をしたきっかけ）

（問2で「1年以内に献血をした」、「献血をしたことはあるが、1年以内にはしていない」を選択した方へ）

あなたが、献血をしたきっかけは何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=704)



○「学校に献血バスが来た」、「職場に献血バスが来た」を合わせると52.0%であった。

○「家族や友人が献血をしていた」が20.2%であった。

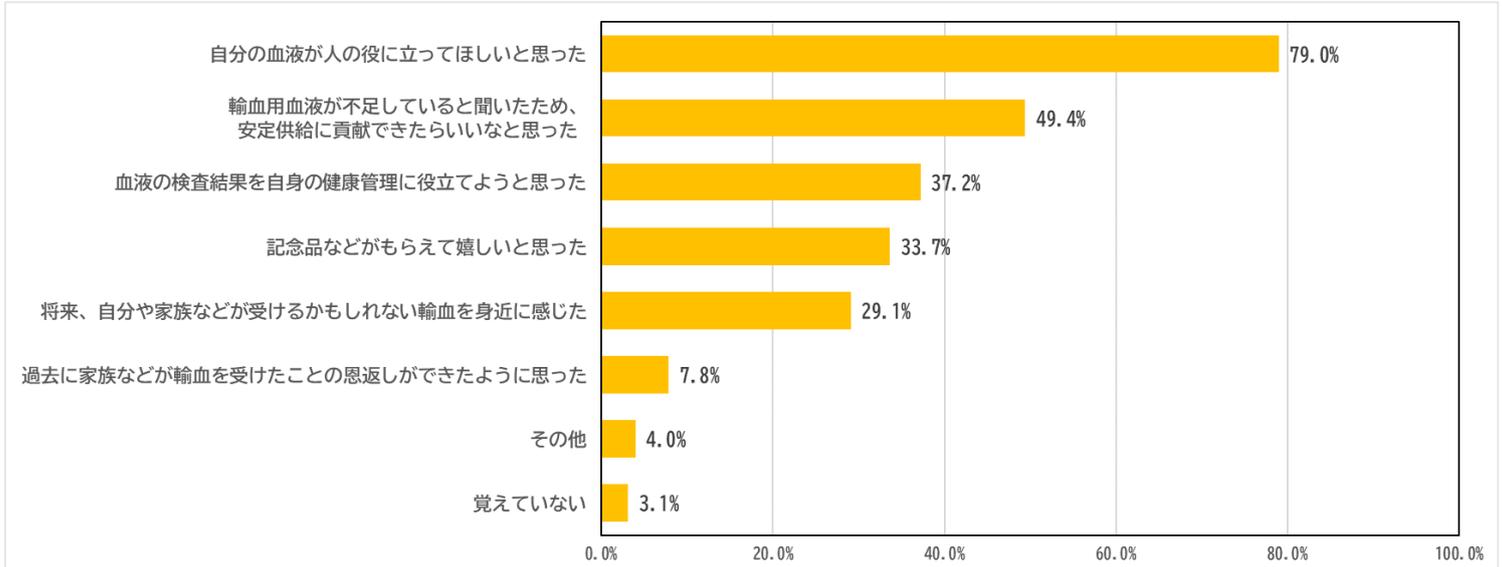
○「その他」（14.8%）として、献血バスや献血ルームの近くを訪れたから、自分の血液型が足りないという呼びかけを聞いたから、輸血を必要としている家族や知人がいたから、欲しい記念品があったから、などの回答があった。（計104件）

【問5】（献血をして考えたこと）

（問2で「1年以内に献血をした」、「献血をしたことはあるが、1年以内にはしていない」を選択した方へ）

あなたは献血をした際、どのようなことを考えましたか。次の中から、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

(n=704)



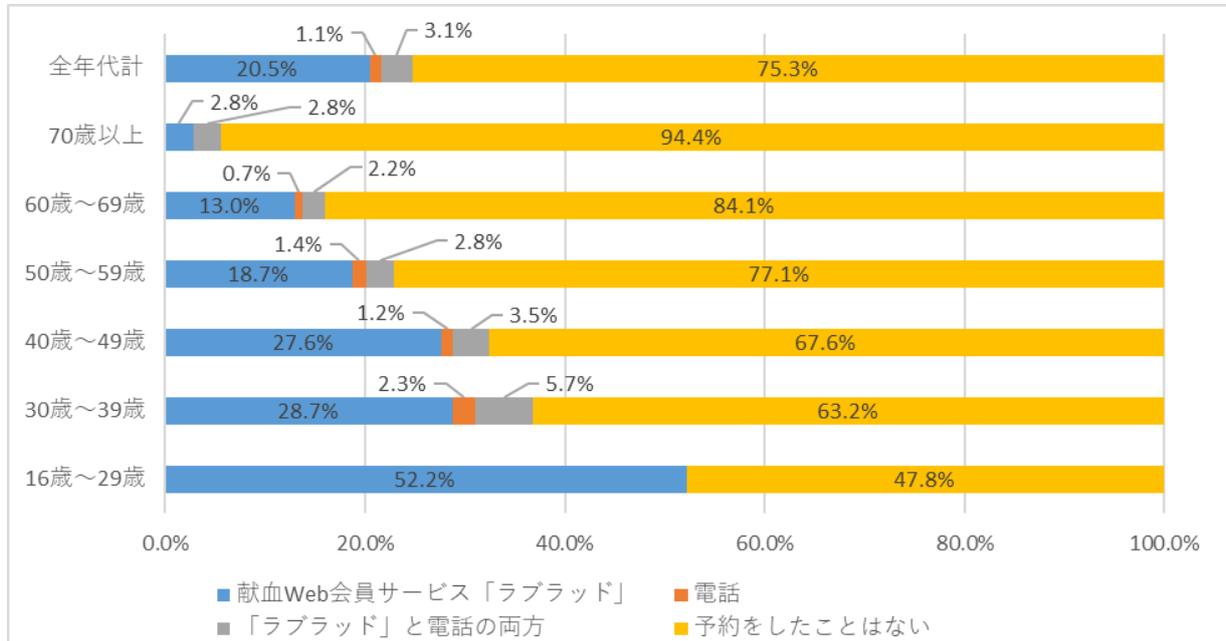
- 「自分の血液が人の役に立ってほしいと思った」が79.0%、「輸血用血液が不足していると聞いたため、安定供給に貢献出来たらいいなと思った」が49.4%となった。
- 「血液の検査結果を自身の健康管理に役立てようと思った」が37.2%であった。
- 「その他」(4.0%)として、輸血を必要としている知人から感謝されてうれしかったなどの回答があった。(計28件)

【問6】（献血を予約した経験）

（問2で「1年以内に献血をした」、「献血をしたことはあるが、1年以内にはしていない」を選択した方へ）

全国の献血ルーム及び一部の献血バスでは献血の予約が可能です。あなたが、献血の予約をしたことがあるものは何ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=704)



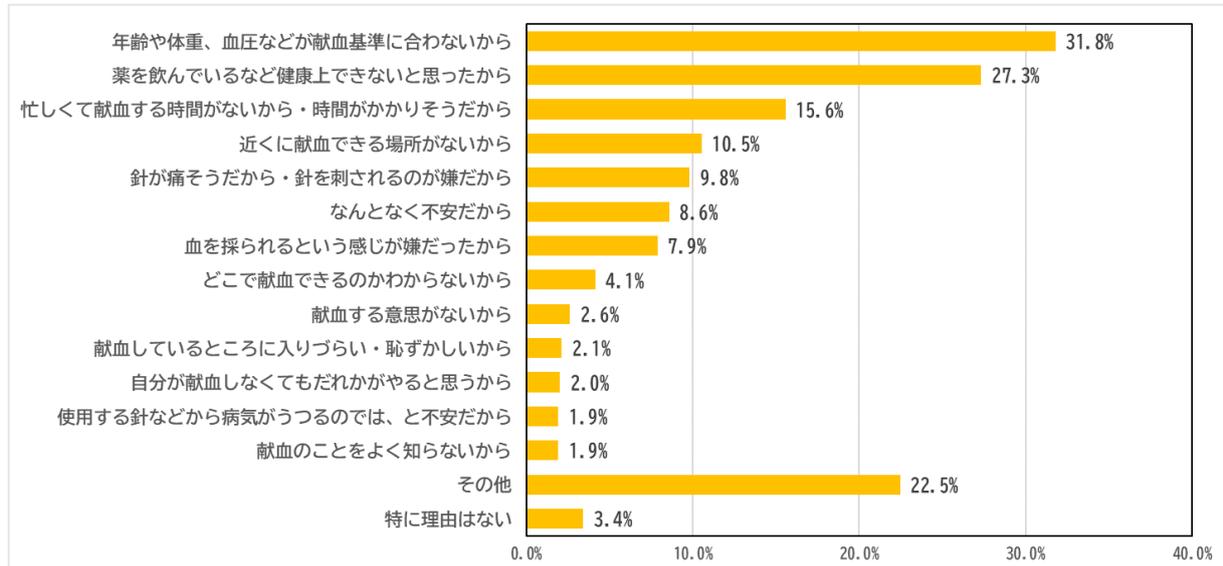
- 「献血 Web 会員サービス『ラブラッド』」で予約したことがある方の割合は、若い年代のほうが高く、16歳～29歳では約半数の方が利用していた。
- 「予約をしたことはない」は全年代計で75.3%であった。

【問7】（献血をしていない理由）

（問2で「献血をしたことはあるが、1年以内にはしていない」、「一度も献血をしたことがない」を選択した方へ）

あなたが、1年以内に献血をしていないまたは、献血をしたことがない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=988)

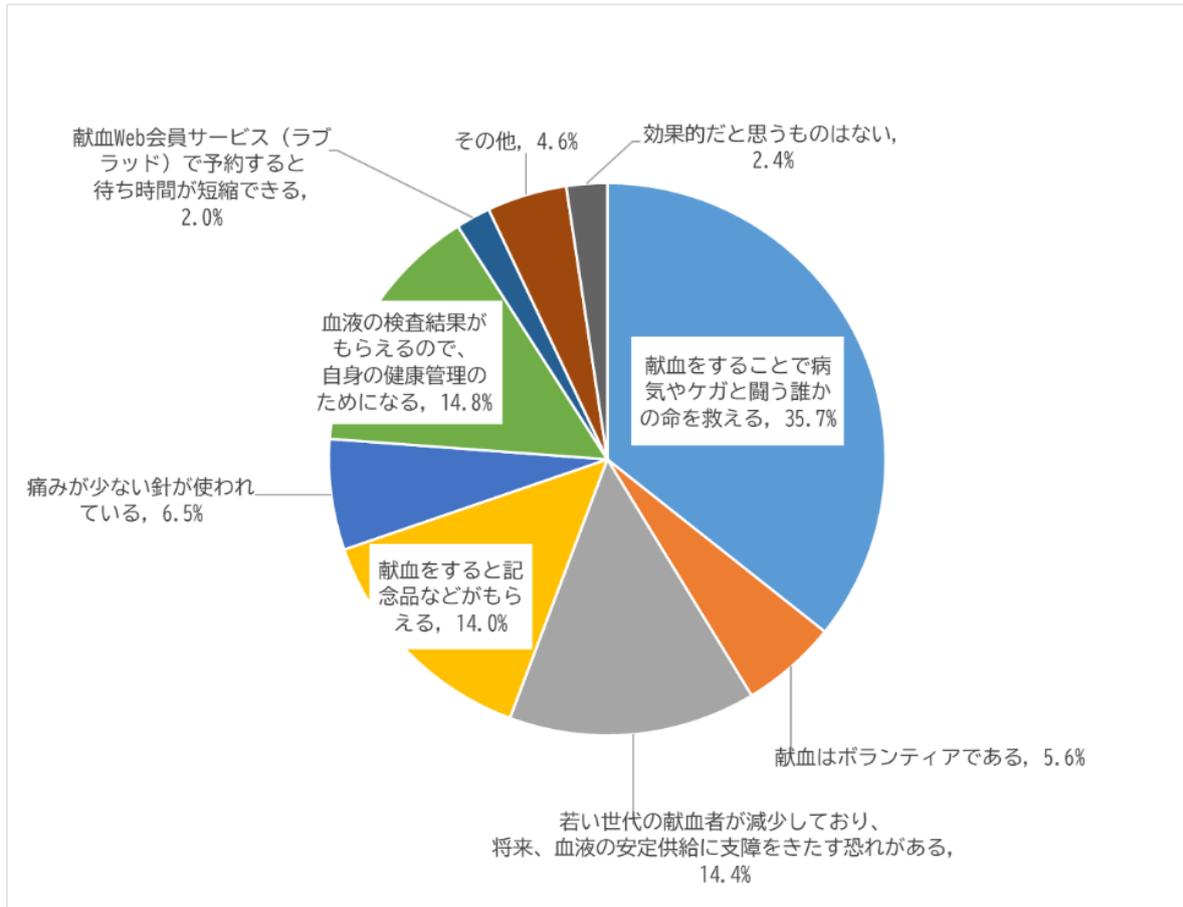


- 「年齢や体重、血圧などが献血基準に合わないから」が31.8%、「薬を飲んでいるなど健康上できないと思ったから」が27.3%であった。
- 「近くに献血できる場所がないから」が10.5%、「忙しくて献血する時間がないから・時間がかかりそうだから」が15.6%であった。
- 「その他」(22.5%)として、子育て中で子供を連れていけないから、献血後に貧血になりそうだから、血管が細くて断られたからなどの回答があった。(計222件)

【問8】（若年層に対する献血の広報）

現在、茨城県では若い世代（10代～30代）の方に献血を推進しています。献血をアピールする内容として、あなたが、最も効果的だと思うものは何ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,142)



- 最も多かったのは「献血をすることで病気やケガと闘う誰かの命を救えること」で35.7%であった。
- 「血液の検査結果がもらえるので、自身の健康管理のためになること」が14.8%、「献血をすると記念品などがもらえる」が14.0%であり、献血した際の献血者本人のメリットが挙げられた。
- 「若い世代の献血者が減少しており、将来、血液の安定供給に支障をきたす恐れがあること」が14.4%であった。
- 「その他」（4.6%）として、所要時間など具体的なイメージをつかめる情報、献血の安全性、家族や自分自身が献血で助けってもらう立場になるかもしれないことなど、また、手法として、継続的なアピールが必要、著名人やキャラクターとのコラボを実施するなどの意見があった。（計53件）

【問9】（自由記述）

献血についてご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。（200字以内）

- ・見知らぬ人への小さなボランティアと思っています。時間も掛かりますし、それは楽では無いかも知れませんが、少しの勇気と時間のやり繰りで世の中の役に立てますよ。
- ・献血を知っていれば、やった方が良く考えている人は多いと思うが、自分が、今、やらなければとかなかなかならない。場所と時間の面で献血しやすい状況になるとする人が増えるのかと思う。
- ・400ml 推奨だが、200ml でも抵抗なく出来るようにして欲しい。400ml 推奨と書いてあると、行きにくい。
- ・高校に献血バスが来たことが初めて献血をするきっかけでした。若い世代の人に献血の必要性を伝え、協力を得られる機会をつくるため、学校に献血バスが来ることは有効であると実感しています。
- ・実際の流れが、具体的にわからないと不安になります。また、どの程度の時間がかかるかは知りたいです。そして、早めの告知があればなお、良い！例えば、年間予定を配布する。皆さん忙しく働いているのでシフトの予定組み等が必要となるためです。
- ・献血バスは、近くに来ていますが、受付時間が16時までなので、仕事の帰りに寄ることができません。せめて、17時まで受付できるようにしていただけたら、もっと協力できると思います。
- ・献血は手軽に社会貢献をできるものだと思うので、誰かを救える！というアピールをすると良いのではないかと思う。また、痛みが少ないとは言え、少しは痛みもあるので、もっと痛みの少ない針を開発して欲しいと思った。
- ・献血をしたくてもいつも比重でひっかかり、役に立てない気持ちでした。引っかかってもいいからまずは参加してよと言われると、ダメ元で参加しやすい。また、薬を飲み始めたがそれが献血はダメかわからなく、献血カーを見かけても、受付に行くことをためらってしまう。相談して良いと前面に書いてもらえると、こちらも、ダメ元でお声がけできるので、ご検討ねがいたい。
- ・献血の意義もわかるし、嫌だという訳ではないが、なんとなく面倒だと思ってしまう。
- ・献血をすることによって誰かのお役に立ちたいと思っていましたが、適合出来ず、一度も貢献することが出来ませんでした。健康で献血をしても良いという方がいらっしゃったら、是非とも協力していただきたいと思います。
- ・献血に対して怖いという気持ちを持っている人も多いと思います。献血の流れ、時間、体験談などを知れたら少し安心できるかも…途中でつらくなったらやめても大丈夫と優しく言ってもらえたら挑戦する人もいるかも…と思いました。
- ・献血ルームまでは遠く、出かけた際の隙間時間に利用したくても予約制となってしまう、今ではなかなか献血ルームを利用する機会がありません。そのため献血バスが来た際に400ml 献血に協力しています。ただ献血バスは現状400ml 献血しか受け付けていないらしく、200ml 献血でも可能になれば(待機期間が短くなるので)もっと回数が増やせるのに…と思います。
- ・献血が必要でなくなるように、血液が人工的に造れるようになって欲しい。
- ・献血した血液がどのように使われているのか、情報発信が少ないと思います。
- ・最初は「痛い」「怖い」「自分の血を採られるのは嫌」等と言うネガティブな考えしか有りませんでした。思い切って第一歩を踏み出してみると、痛みも全く無く、むしろ終わった後は自分の血が誰かの役に立つかもしれないと言う達成感、爽快感に包まれ「やって良かった」と言う気持ちになり、それからは積極的に献血するようになりました。

- ・「週末いけそうだから」と思って直前に予約しようと思っても、土日の予約がかなり前に埋まっておき予約できないので直前予約枠もあるとよいと思います。キャンセル待ち〇人目などがあると利便性増えます。
- ・献血バスで行われているのは、400ml 献血だけ。女性で 50kg 以上という基準は、難しいです。成分献血もできるようになる。もしくは、県西地区にも献血ルームを開設していただきたいです。
- ・50 回もの献血をして、最後に自分が輸血を頂くとは思わなかったので、自分のためにもなるのだと思いました。これで私は献血はできないが、少しでも多くの方に献血がお役に立てたことは自分の誇りであり、またお金のかからないボランティア活動で短時間でできることが献血だと思うので、若者たちにたくさんやっていただきたいと思います。
- ・輸血のフローをイラストでバスにラッピングすると分かりやすいと考えます。

など、415 件の意見があった。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・これまで一度も、あるいは1年以内に献血をしていない人の主な理由は、健康上の理由を除くと、献血場所の遠さや所要時間がわからないなどの声が最も多かった。予約サービスの認知度及び実際の使用率の低さを考慮し、今後、献血の手順や献血車の配車場所、予約方法等の具体的な情報提供について、より強化していく必要がある。また、針や血を抜かれることへの不安を感じる方もいるため、不安感を軽減するための広報も必要である。
- ・献血のきっかけとして学校献血・職場献血が挙げられたことから、学校や職場に対し、献血車の配車をさらに呼びかけていくとともに、家族や友人等の身近な人が献血をしていたことが動機とした方もいることから、周囲の理解などの雰囲気づくりが重要だと推測される。
- ・将来にわたって安定的に献血者を確保するためには若年層の協力が必須である。効果的なアピールとして最も回答が多かったのが「誰かの命を救えること」であった。献血経験者の献血後の心境として、他者への貢献を望んだ回答割合が高かったことから、献血は16歳からできる身近なボランティアであることを広く訴えていくとともに、献血者本人にとってもメリットがあることを周知していく必要があると考えている。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：2024年6月17日～2024年6月30日

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,576名

回収率：72.5%（回収数1,142名）

回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		1,142	100.0
地域別	県北	98	8.6
	県央	337	29.5
	鹿行	67	5.9
	県南	351	30.7
	県西	90	7.9
	県外	199	17.4
性別	男性	474	41.5
	女性	668	58.5
年齢別	16～19歳	10	0.9
	20～29歳	54	4.7
	30～39歳	173	15.1
	40～49歳	312	27.3
	50～59歳	308	27.0
	60～69歳	180	15.8
	70歳以上	105	9.2
職業別	自営業	93	8.1
	会社員	448	39.2
	団体職員	48	4.2
	公務員	52	4.6
	主婦・主夫	239	20.9
	学生	25	2.2
	無職	120	10.5
	その他	117	10.2

(2) 担当課

茨城県保健医療部医療局薬務課（企画調整グループ）

電話：029-301-3384

E-mail：yakumu@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。